令和２年度第２回倉敷市地域包括支援センター運営協議会議事要旨

１　会議名

令和２年度第２回倉敷市地域包括支援センター運営協議会

２　開催日時

令和３年１月２７日（水）　１３：３０～１５：００

３　開催場所

倉敷市役所３階議会第２会議室

４　出席者

（１）委員（１５名）

石崎　英子　　（倉敷市老人クラブ連合会）
猪木　真弓　　（岡山県介護支援専門員協会倉敷支部）
今井　博之　　（倉敷市連合医師会）
内田　修子　　（倉敷ねたきり・認知症家族の会）
大久保　ますみ　（岡山県看護協会倉敷支部）
川上　富雄　　（岡山県社会福祉士会）
川西　三貴　　（倉敷市内歯科医師会協議会）
佐藤　壽子　　（倉敷市栄養改善協議会）
嶋田　武　　（岡山県備中県民局健康福祉部）
清水　加奈子　　（岡山弁護士会）
妹尾　波枝　　（岡山県薬剤師会倉敷支部）
田辺　牧美　　（倉敷市議会保健福祉委員会）
津田　由起子　　（倉敷市介護保険事業者等連絡協議会）
中上　由美子　　（倉敷市社会福祉協議会）
永瀬　潤一　　（倉敷市民生委員児童委員協議会）

（※下記１名が欠席）

岡本　育子　　（倉敷市愛育委員会連合会）

（２）事務局（１０名）

渡邊　浩　　（健康福祉部　部長）
林　　徹　　（健康福祉部　参事）
檜垣　みちよ（地域包括ケア推進室　室長）
吉田　猛　　（健康長寿課　課長代理）
守屋　直樹　（介護保険課　課長補佐）
高橋　祥子　（地域包括ケア推進室　主幹）

渡邊　美和子（福祉援護課　主任）
同前　和也　（地域包括ケア推進室　主任）
本山　和人　（　　〃　　副主任）
横田　由紀子（　　〃　　嘱託）

５　議題
（１）小地域ケア会議等を通じた地域づくりの推進について
（２）令和２年度高齢者支援センターの巡回訪問について
（３）倉敷市高齢者支援センター事業評価の結果報告について
（４）令和３年度倉敷市高齢者支援センター事業計画（案）について
（５）令和３年度倉敷市高齢者支援センター事業評価基準（案）について
（６）その他

６　傍聴者の数
無し

７　審議内容
１）開会

２）あいさつ
渡邊健康福祉部長が開会挨拶
３）議事
（１）小地域ケア会議等を通じた地域づくりの推進について
事務局より説明。天城・茶屋町高齢者支援センターより「わが町の一人一人の命を守る『天城学区防災マップづくり』~天城学区小地域ケア会議を通じた支え合いのまちづくりの取り組み～」の発表の後，質疑応答。

委員Ａ
作成した防災マップは，天城学区を９ブロックに分けているが，１ブロックが何世帯くらいか。自分は，規模は小さいほど良いのではないかと感じている。また，モデル地区はどのようにして選定したのか。

天城・茶屋町高齢者支援センター
１ブロック当たりの世帯数は把握できていない。各ブロックは，広いエリアの所と高台の住宅地だけをエリアとするブロックもある。モデル地区としたブロックは，以前から自主防災組織が立ち上がっており，規模的にも町歩きをモデルでするエリアとしては，よかった。また，活動の中心者が届出避難所（集会所）を運営している。この地区は，集会所に住民全体の地図を載せて，誰が誰を助けにいくかまでの仕組みを作られている。以前地区を歩いた時に避難所から遠い所に住む方は，逃げることができなくなるだろうからと自分たちの集会所を届出避難所にした。これらのことから

モデル地区に選んだ。

委員Ａ
小地域ケア会議と自主防災組織との連携は，どのように取っていったのか。

天城・茶屋町高齢者支援センター
自主防災組織が出来ている所は少ない。自主防災組織が出来ている所は，このようにモデル的になっているが，問題意識が薄く，自治会から脱退している世帯が多いエリアはこのような活動を通して初めて防災を自分事として考えないといけないという所に来た段階なので，自主防災組織と連動するところまでは至っていない。

会長
この取り組みは素晴らしい。このマップは表が自分の住むエリア，裏が天城学区全体の地区のマップとなっているが，各戸配布する際には自分の住んでいるところだけを配布したのか。

天城・茶屋町高齢者支援センター
ご認識のとおりである。

会長
発表の途中，行政に頼んでもやってもらえなかったという説明があった。行政に頼んでもやってもらえなかったからこそ，ここまでの取り組みが出来たのかもしれない。このマップはとても良いと思う。今後，行政としてこのような防災マップを作っていく考えはあるのか。

事務局
高齢者支援センターがそれぞれの地区で防災の取り組みを独自に行っていることを横展開として紹介している状況である。全市的に取り組んでいくことについては，防災部署で検討されているので確認できていない。

会長
防災部署の方へもこのような事例があるということをぜひ伝えていただければと思う。

（２）令和２年度高齢者支援センターの巡回訪問について
事務局より説明の後，質疑応答。

会長
コロナ禍でも各高齢者支援センターが，工夫して取り組んでいる事は，事例として挙がっているのか。

事務局

随時，各センターから挙がっている。例えば，通いの場の再開支援について，通いの場の世話役から感染防止についての注意点など相談を受けた際，ポスターやチラシを作って活動再開にむけて支援している。地域包括ケア推進室でセンターが作成したチラシなどを集約して，他センターに情報発信をすることで，他センターも共有，活用することがある。その他，オンラインで教室を開催したセンターがあり，アプリの入れ方や高齢者への伝え方など情報交換をすることでセンター間での広がりを見せている。

（３）倉敷市高齢者支援センター事業評価の結果報告について
事務局より説明。質疑応答はなし。

（４）令和３年度倉敷市高齢者支援センター事業計画（案）について
事務局より説明の後，質疑応答。

副会長
全国統一の評価指標の中で，事業間連携および市の包括的・継続的ケアマネジメント支援業務が弱いという評価が出ているが，その部分を高めるために来年度の事業計画の中で触れている点や強調しておきたい点があれば教えていただきたい。

事務局
具体的に計画としては位置づけていないので，改めて検討し，追記させてもらいたい。事業間連携の中で，在宅医療介護連携に関し，「住み慣れた倉敷で安心して暮らしていくために」というパンフレットを作成した。近日中に医療機関や介護機関に配布し，地域の皆様にも伝えることを考えている。

委員Ｂ
個々の事業計画については理解できたが，コロナ禍でこの計画をどのように進めていけるのか重要な視点である。コロナ禍において，いかに事業を進めるのかという視点を事業計画に盛り込む必要があるのではないか。

委員Ｃ
コロナ禍において，各高齢者支援センターが工夫した取り組みについて，センター同士の情報共有や地域包括ケア推進室がアンケートなどを通じて，情報収集し，各センターへ返していくことは重要なことである。また，ケアマネ業務をしていて高齢者支援センターと関わるが，センターごとの対応の差を感じる時がある。居宅介護支援事業所のケアマネジャーがどのように感じているかなども情報収集し，高齢者支援センターに返していく作業も有効ではないかと思う。

会長
コロナの中での活動の指針や各ケアマネからの思いなどもアンケートを取ってもらう形がよいと思う。その辺りも事業計画に盛り込んでもらえると良い。

委員Ｄ
コロナの事を考えると，今後も治まっていくかどうかはわからないので，この運営協議会の持ち方もこの会場に来る方とオンラインの方を組み合わせるなど，運営自体の工夫をすることも検討していただきたい。

会長
医師会の理事会もＷＥＢ併用でするようにしており，検討していただきたい。事業計画（案）は先ほどの意見を踏まえてもう一度作っていただくということでよろしいか。

（各委員）承認

（５）令和３年度倉敷市高齢者支援センター事業評価基準（案）について
事務局より説明の後，質疑応答。

委員Ｅ
実態把握調査（新規訪問件数）だが，コロナの影響で訪問件数の目標がどうなのか。例えば，文書で調査票を送って返信がない所だけ訪問するとか，そういう工夫で訪問件数以外の目標も考えられるのではないかと思う。

会長
訪問自体がはばかられるという状況があるのでは，という意見だが，事務局の考えはいかがか。

事務局
昨年 10 月から新しく電話による実態把握調査を実施している。現状として 12 月，今月に関しては，電話による実態把握の実績が増えている状況である。書面を活用した実態把握調査は考えていなかったので，今後の取り組みの参考にしていきたい。

会長
実態把握調査（新規訪問数）について，これは実際の訪問だが，電話による実態把握調査はこの中でどのような位置づけか。

事務局
現状，実態把握調査は，新規世帯へ電話による調査は控えるよう伝えている。高齢者支援センターには各圏域の 65 歳以上の方のリストを渡し，それをもとに実態把握調査をしてもらっているが，リストの中には電話番号は入っていない。このことから新規世帯への実態把握調査に関して，電話は含まないと考えている。

会長

それでは，市の文書による支援も新しく取り入れてもらい，事業評価（案）は承認ということでよろしいか。

（各委員）承認

（６）その他

特になし

４）閉会挨拶

林健康福祉部参事が閉会挨拶